

令和5年度 大田区災害時医療フォーラムの実施結果について

1 実施概要

(1) 日 時 令和5年9月9日(土) 14:30 から 17:20 まで

(2) 会 場 大田文化の森 ホール

(3) テーマ 「迫る首都直下地震に備えて」

(4) 内 容

進行 松本 賢芳 氏

(大田区災害医療コーディネーター、大森赤十字病院 医療社会事業部長)

ア 「大田区の防災対策について ～災害から区民をどう守るか～」

(大田区 防災計画担当課長)

イ 「大田区の災害医療体制 ～大地震でケガをしたら～」

(大田区 災害・地域医療担当課長)

ウ 「東京都区南部での首都直下地震と医療対策 ～その時どう行動するか～」

本多 満 氏

(東京都地域災害医療コーディネーター、東邦大学医療センター大森病院
救命救急センター長)

エ 「首都直下地震時の医療活動 ～特に日本DMAT等の外部支援等の課題～」

小井土 雄一 氏

(厚生労働省 DMAT事務局長)

オ パネルディスカッション

出演者5名による意見交換

2 実施結果

(1) 来場者数 98名

※当日は、会場内に手話通訳者及び要約筆記者を配置

(2) 来場者の声

- ・実際に力を入れて取り組んでいる先生の発言で、心強いと思った。
- ・今までDMATの活動を知らなかったが、活動内容を理解できた。
- ・関係機関が訓練を通して連携を図っていることが印象的であった。
- ・区と東邦大森病院が共同して実施した災害訓練を具体的に知ることができれば、よりイメージが付きやすく理解が深まると思った。
- ・自分でできることは、事前にやっておくことが必要だと改めて思った。
- ・緊急医療救護所を周知していく必要があると思った。
- ・手話通訳、要約筆記の対応や配布されたハンドブックなど、他の行政にも参考にしてほしいと感じた。

3 その他

各講演 15 分程度に編集し、テロップを付けた動画を、大田区公式チャンネルにて配信予定